

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 25 日現在

機関番号：72622

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K00937

研究課題名（和文）From Transculturation to Culture-Specific Ethics: The Implementation of Confucian Ritual Forms in 19th Century Japan

研究課題名（英文）From Transculturation to Culture-Specific Ethics: The Implementation of Confucian Ritual Forms in 19th Century Japan

研究代表者

Chard Robert (CHARD, Robert)

公益財団法人東洋文庫・研究部・研究員

研究者番号：30571492

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、文化史および物質文化の視点から、江戸後期（19世紀）日本における儒教儀礼形式、とりわけ孔子廟・釈奠について研究するものである。本研究では、研究の中心を主要な藩校に関する史料（文献・遺物）の調査に置き、洋学等の新たな学術形式が勃興し、漢学教育が勢いを失いつつある当時の状況の中で、儒教儀礼形式がなぜ継続されたかを考究した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、江戸後期（19世紀）日本における儒教儀礼形式の適応事例を分析し、倫理的価値がいかに文化に埋め込まれているかを明らかにしたことにある。本成果は東アジア史にとどまらず、世界規模の文化史、倫理研究に影響を与えるものである。また、その社会的意義は、倫理システムの文化的基盤の理解を推し進め、現代世界における異文化間のグローバル倫理の発展に有用なフレームワークの開発に役立つ知見を提供したことにある。

研究成果の概要（英文）：This project examined the function of Confucian ritual forms, particularly the Confucius temple and Sekiten rite, in Japan in the late Edo period from cultural history and material culture perspectives. The focus of the research was on documentary sources and material artefacts relating to domain schools, to explain why these ritual forms continued when Confucian learning declined as new forms of learning and education grew.

研究分野：東アジア文化史

キーワード：Confucianism Ritual

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究は、それ以前に実施された江戸前期・中期の藩校における儒教儀礼形式に関する研究の成果を承けて、開始されたものである。

江戸前期(17世紀)は、日本の儒教儀礼形式の実施において、形成期であり、孔子廟はしばしば公的な学校と結びついていなかった。孔子廟は、殆どの人々が儒教を知らない環境の下、儒教的伝統を表現するために、例えば多久聖廟のように、公然と威容を誇るように可視的にデザインされた。それは、社会秩序を築くために、忠・孝といった徳目を広めることを目的としたものであった。

江戸中期(18世紀)になると、孔子廟と儒教儀礼はより整備され身近なものとなり、それらの視覚的側面は、もはやそれほど強調されなくなった。徳川綱吉による儒学の奨励と湯島聖堂の建立は影響力をもち、孔子廟は儒教を奉じる学校であることを示す象徴的標識として藩校に併設されるようになった(例えば萩藩校明倫館)。

本研究では、江戸後期(19世紀)に時期を移し、同様の研究視角と研究方法を継続して適用し、孔子廟とその他の儒教儀礼形式について研究した。

2. 研究の目的

本研究の目的は、文化史および物質文化の視点から、江戸後期(19世紀)日本における儒教儀礼形式、とりわけ藩校において営まれた孔子廟・積奠の実態を明らかにすることである。本研究では、研究の中心を主要な藩校に関する史料(文献・遺物)の調査に置き、洋学等の新たな学術形式が勃興し、儒学教育が勢いを失いつつある当時の状況の中で、儒教儀礼形式がなぜ継続されたかを考究した。

3. 研究の方法

日本の儒教は通例、思想家としての特定の教育者に焦点を当てつつ、思想的伝統として研究されてきた。本研究では、器物および身体的実践を通して移転され、表現された「文化を跨る現象」として儒教に接近する新たな異なるアプローチをとっている。

また、近世藩校は、日本教育史の研究者によって幅広く研究されてきたが、本研究ではそれと異なり、文化史および物質文化研究のアプローチがとられている。すなわち、民衆に特定の道徳を身につけさせ、統治者に忠誠を尽くすよう仕向けることによってより良い社会秩序を達成するための藩の統治戦略というより大きなコンテキストの中で、藩校における儒教の物質的表現を、文化伝達の媒体として分析するというものである。

4. 研究成果

(1) 儒教儀礼形式(孔子廟・積奠等)は中国に起源をもつが、江戸後期(19世紀)日本においては、諸藩の大名・役人により、中国のコンテキストと基本的に異なる仕方で理解され展開された。それはまた、江戸前期(17世紀)・中期(18世紀)に儒教儀礼形式が行われた仕方とも異なるものであった。

(2) 江戸後期(19世紀)日本の諸藩の藩主・役人によって儒教儀礼形式が展開された方法は、結果として、同じ形式が中国で有していたのと非常に異なる意味と機能を生じさせた。中国では、儒教儀礼形式は、政府高官への道としての試験制度である科挙と結びついた礼制のフレームワークの中で定義された。日本では、社会的・政治的秩序がまったく異なっていたため、これらの儀礼形式はまったく異なる機能と意味を持った。

(3) 日本では、藩校における儒教儀礼形式の物質的・身体的実践は、政治権力の中核にあり、統治という実際的な目的を念頭に置いた諸藩の大名によって導入された。これらの藩校は19世紀前半にその数を大幅に増加し、それ以前の藩校と同様、孔子廟や積奠の儀式を引き続き、組み込むことが多かった。

(4) 江戸後期（19世紀）日本においては、儒学以外の学術的伝統（特に国学、蘭学、洋学、兵学）がより影響力をもつようになり、文化的・知的環境が一層多様化した。諸藩校においては孔子廟・積奠等の儒教儀礼形式が維持されただけでなく、新たに孔子廟が設置された。

(5) 江戸後期（19世紀）の藩校においては、江戸前期（17世紀）・中期（18世紀）に重視された忠・孝といった特定の儒教的徳目にかえて、藩校に関わる人々の言説において、より一般化した「徳」が強調されるようになった。

(6) 江戸時代の藩校は3つのカテゴリーに分かれる。17世紀のかなり早い時期に活発に漢学を奨励し、孔子廟を建立し、積奠を実施した藩校、寛政の改革以降、19世紀に新たに設立された藩校、寛政の改革以前にすでに設立されていたが、寛政期に再建・拡張された藩校（しばしばカリキュラムを変更され、文学のみならず武術の訓練も組み入れられた）である。

(7) 儒教の物質文化に関する歴史研究は、いかに倫理が文化に埋め込まれているかを明らかにしており、現代世界の異なる諸文化において倫理的価値が理解され、教え込まれる文化固有の方法を理解するのに役立つ。新たなグローバルな倫理システムへの現代的なニーズを満たすために、本研究をより一層深める必要がある。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 Chard Robert
2. 発表標題 The Culture of "Ceremonial Usage" in the Spread of Confucianism in China and East Asia
3. 学会等名 紀念孔子誕辰2570周年國際學術研討會（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Chard Robert
2. 発表標題 Visible Confucianism: From the Ancient Ru to the Spread of Ritual Forms in East Asia
3. 学会等名 One Asia - A Transcultural Community（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Chard Robert
2. 発表標題 Foundations of Chinese Imperial Ritual: Eastern Han and its Legacy
3. 学会等名 Conference: East Asian Interactions（國際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Chard Robert
2. 発表標題 Classical Education in 17th-Century China: Perspectives from Japan and Europe
3. 学会等名 全球高等教育管理者論壇（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Chard Robert
2. 発表標題 When the Shidian Became the Shidian: Confucius Worship in 3rd Century China and its East Asian Consequences
3. 学会等名 Symposium: East Asian Interactions (国際学会)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 Chard Robert	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Brill	5. 総ページ数 223
3. 書名 Creating Confucian Authority	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関